

ひきこもり地域支援センターと他の相談支援機関との連携事例

○ ひきこもり地域支援センターから福祉支援につながった事例

- ・ 両親が亡くなり、一人残された甥に、叔母が食料を届けていたが、訪問が難しくなったと、叔母からひきこもり地域支援センターに相談。
- ・ センター職員が家の鍵を預かり、叔母から宅急便で送付された食料を訪問支援して届けるようにした。本人との会話は、筆談かボードへの指差しのみであった。
- ・ その後、福祉支援につながり、生活保護の受給ができるようになった。
- ・ 最初の相談から2年経過したが、現在、成年後見制度のサポートにつながっている。

○ ひきこもり地域支援センターから地域若者サポートステーションにつながった事例

- ・ 大学を卒業後、就職に失敗し、5年間程度ひきこもり状態になった本人からひきこもり地域支援センターに相談。
- ・ ひきこもり地域支援センターが実施する、当事者グループでの活動参加後に、地域若者サポートステーションにつなぎ、各種のプログラムに取り組み、自己肯定感が高まり、就職へと繋がった。

○ ひきこもり地域支援センターから自立支援相談窓口につながった事例

- ・ 中学校卒業後、ひきこもり状態となり、母からひきこもり地域支援センターに相談。
- ・ ひきこもり地域支援センターが実施するグループ活動への参加後に、生活困窮者の相談窓口につなぎ、就労体験（就労準備支援）を経て、資格を取得し、就職した。
- ・ 自立支援窓口につないだ後も、継続して自立支援相談窓口に行くようにセンターとしてフォローを継続するとともに、自立支援相談員と連携して本人の能力に合った活動場所などの調整をした。
- ・ 本人を自立支援相談窓口につなげたのは、伴走支援の成果であり、伴走型支援を継続していると、自立支援相談窓口で上手いかなかったり、指導されて嫌なことがあったりしても、相談員のフォローが可能になる。

